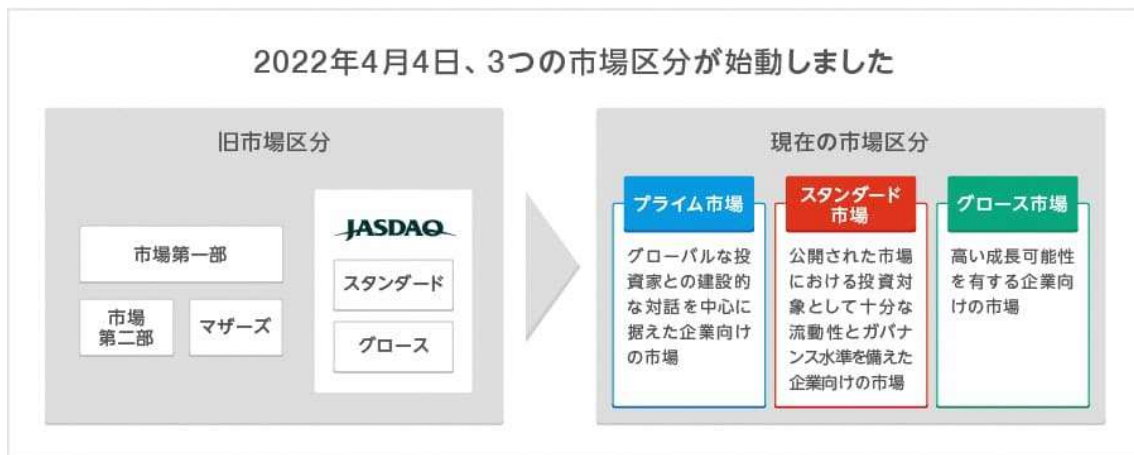


2022年4月号

FP 武蔵野グループ

島 信次 (CFP 認定者)

東証市場構造の見直し



- ① 経緯：東証は2013年に大阪証券取引所と合併し、一部・二部はそのまま統合したが元々成り立ちが異なるマゼースとジャスダックは従来通り残す形で、4市場5区分で維持されてきた。しかし見直しが検討されてきたが19年末に金融審議会の検討報告を受けて新たに「プライム」「スタンダード」「グロース」とコンセプトを分けた3つの市場区分に決定した。
- 旧市場の上場会社は昨年12月までに新市場を選択し（条件未達の企業は計画書を提出）無事移行が完了した。

② [TOPIX]見直し：日本の代表的な株価指数である「TOPIX」は東証一部に上場する企業で構成されているが、その市場が無くなることで見直し方法が検討されてきた。市場区分とは切り離して構成銘柄を選定し、投資対象としての機能性のさらなる向上を目指すことに決定。

その結果「市場に関係なく流動株式時価総額100億円以上の銘柄で構成する」となった。

（「TOPIX 連動のパッシブ運用資産はETFを含め70兆円にも及ぶ。それらへの影響をできるだけ抑えるため再編後も約半年は従来の構成銘柄を継続し」移行は2022年10月から25年1月にかけて行われる）

以 上

本稿作成に当たっては「東証ホームページ」「日経 MOOK[東証再編]」を

参考にさせていただきました。

ありがとうございました。

島 信次